



< 第Ⅱ期病院改革プラン >

県立病院の近年の取り組み

- ◆ 近年の取り組み
- ◆ 再編・ネットワーク化

鳥取県立中央病院

H27. 8. 6



◆近年の取り組み

中央病院の果たすべき役割

- 県立中央病院は、高度急性期医療を担う地域の基幹病院として、他の医療機関では対応が困難な**高度・先進的な医療、三次救命救急医療、周産期医療、災害医療**等の分野において中心的な役割を果たす。
- 圏域は東部地域にとどまらず、中部地域、兵庫県北部も対象エリアとする。
- 当院は初期・後期の医師臨床研修や看護学生の臨地実習などの研修施設としてこれまで多くの人材を受け入れ・育成してきており、地域医療における人材の育成機関としての役割が期待されている。

1 高度・先進的な医療

① 心臓疾患・脳血管疾患への対応

○ 医療機器の整備

- ・ 320列CTの整備 (H25.3)
- ・ IVR-CTの整備 (H25.3)
- ・ 3.0テスラMRIの整備 (H25.12)

○ 手術件数等 (H22年度 → H26年度)

- ・ 呼吸器・心臓血管外科 347件 → 369件
- ・ 心臓内科 318件 → 393件

※経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー移植術、経皮的カテーテル心筋焼灼術など

○ 血栓溶解療法(t-PA)の実施体制を維持

- ・ H23:21件 → H24:18件 → H25:10件 → H26:25件

○ 脳卒中地域連携パスを継続

- ・ H23:141件 → H24:123件 → H25:123件 → H26:145件



② 「がん」への対応

○ 医療機器等の整備

- ・ I V R - C T の整備 (H25.3) 再掲
- ・ 無菌室 (クラス10,000) 2室 (8床) の整備

○ スタッフの増員と診療体制の充実

- ・ 外科医 : 1名増
- ・ 日本医学放射線学会放射線治療専門医 1名確保
- ・ 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1名養成
- ・ がん治療認定医 15名養成
- ・ 緩和ケア認定看護師 1名養成
- ・ がん化学療法看護認定看護師 1名養成
- ・ 乳がん看護認定看護師 1名養成
- ・ がん放射線療法看護認定看護師 1名養成中

○ 5大がん地域連携パスを運用開始 (H24.4)

- ・ H24 : 39件 , H25 : 42件 , H26 : 43件



2 三次救命救急医療

- 施設の機能強化
 - ・ 3階西病棟の救命救急センター（20床）を分割再整備（H25.11）
 - 救命救急センター（1階） 14床
 - ハイケアセンター（3階） 16床
- 医療機器の整備
 - ・ 64列CTの整備（H24.9）
 - ・ IVR-CTの整備（H25.3） 再掲
 - ・ 320列CTの整備（H25.3） 再掲
 - ・ 3.0テスラMRIの整備（H25.12） 再掲
- スタッフの増員(H26度→H27度)
 - ・ 臨床工学技士2名

3 周産期医療

① 周産期医療の充実

- 周産期施設の整備
 - ・分娩室を拡充整備、内診室の整備

② 低出生体重児等に対する対応

- 医療機器等の整備
 - ・NICUを拡充整備（H25.2）
 - ・インファントウォーマ等の機器を追加整備
- 診療体制の充実
 - ・NICU担当看護師長を配置
 - ・4人夜勤体制の部分実施



4 災害医療

- スタッフの充実
 - ・ D M A T体制の充実 2班を養成（合計5班体制）
 - ・ 災害医療従事者研修を主催（H23年度から年1回）
県内医療関係機関職員を対象（100人程度参加）
- 設備の整備
 - ・ D M A Tカー（H24.10）
 - ・ 衛星携帯電話3台 など
- 災害時の資機材を備蓄
 - ・ 新型インフルエンザ対応資材
 - ・ 医薬品（県からの受託）



5 病院の機能向上

○ スタッフの充実

- ・ 医師の増 74人 (H22.4) →86人 (H27.4)

※非常勤、研修医を含まず

- ・ 看護師の増 423人 (H24.5) →512人 (H27.5)

※育休を含み、非常勤を含まず

- ・ メディカルスタッフの増 72人 (H24.4) →104人 (H27.5)

※医療職2のみ、育休を含み、非常勤を含まず

○ 施設・設備の充実

- ・ ER、NICU、分娩室、リハビリ室の拡充 一部再掲
- ・ 放射線機器の充実 再掲
- ・ 非常用発電装置の追加整備

○ 人材育成の推進

- ・ がん治療認定医 (15人)、専門看護師 (1人)、
臨床研修指導医等 (70人)、認定看護師 (13人)



6 その他

○ 院内保育環境の整備

・ 院内保育所の拡充

定員15人(H25.1)

→ 20人(H25.11)→50人(H26.4)



○ DPCⅡ群病院に指定

※DPC : DPC (Diagnosis Procedure Combination ; 診断群分類) に基づいて評価される入院1日あたりの定額支払い制度。

※Ⅱ群 : Ⅰ群(大学病院本院の80病院)に準じた診療機能を有する病院99病院(山陰で唯一)に指定されており、Ⅰ群病院の最下位病院より、「診療密度」、「医師研修の実施」、「高度な医療技術の実施」及び「重症患者に対する診療の実施」のすべてが上回っている。指定により、Ⅲ群(その他の急性期病院群1,406病院)に比べ、2.11%高い基礎係数が認められる。

○ 新会計基準に移行

※民間企業会計原則の考え方を最大限取り入れる等の観点から、①借入資本金、②補助金等により取得した固定資産の償却制度、③引当金、④繰延資産、⑤たな卸資産の価額評価、⑥リース取引に係る会計基準、⑦キャッシュ・フロー計算書、⑧勘定科目等の見直し等の地方公営企業会計制度の改正が行われた。



◆再編・ネットワーク化

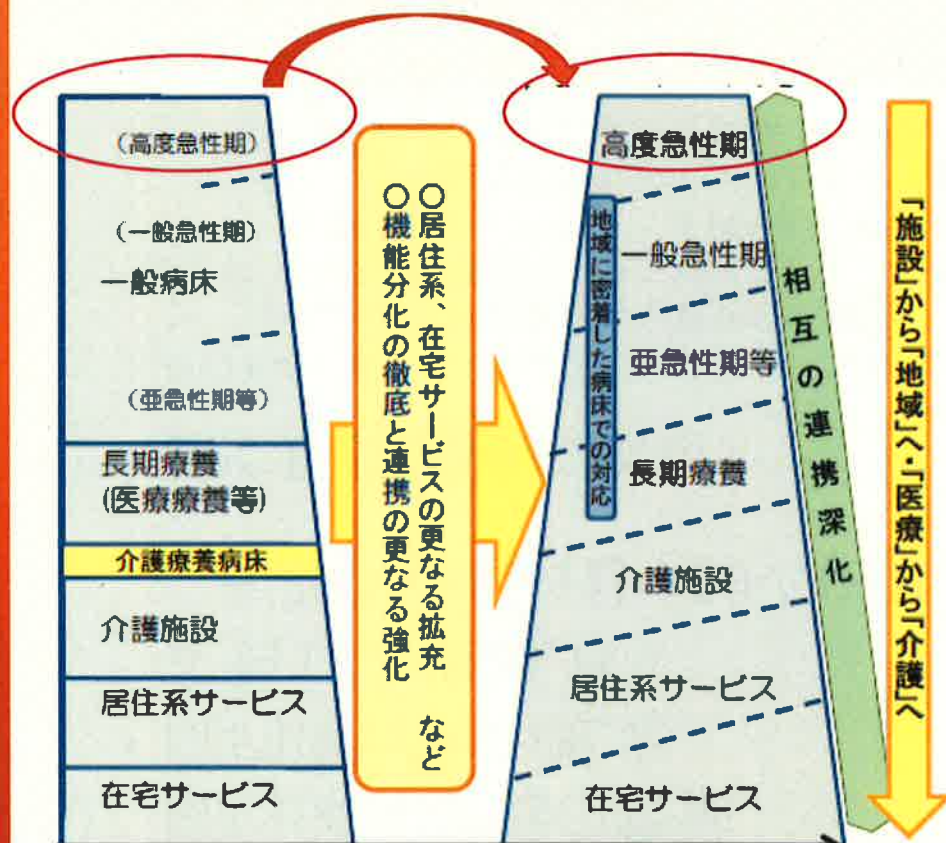


1 地域医療構想に向けた方針

【病院機能】

【病床機能】

【2015(H27)年】 → 【2025(H37)年】



高度急性期機能	ER、ICU、HCU、NICU、GCU、MFICU
急性期機能	高度急性期、回復期、慢性期以外の病床
回復期機能	—
慢性期機能	—

○【病院】としては、「高度急性期」を担う

○【病床】としては、「高度急性期機能」、「急性期機能」を基本に運用

2 新病院建設



平成30年度開設を目指して病院建設を進めており、平成27年度夏には基本設計を終え、実施設計に入る予定。

1. 施設の概要

病床数:518床(一般504床、結核10床、感染症4床)

階構成:11階建て(免震工法)

延床面積:約5万㎡

2. 高度医療を提供する病院としての整備

救急機能の充実(外来・病棟)、集中治療等の充実(ICU・HCU)

周産期センターの充実等、手術室の充実(7室→10室+予備2室)

3. 災害対策

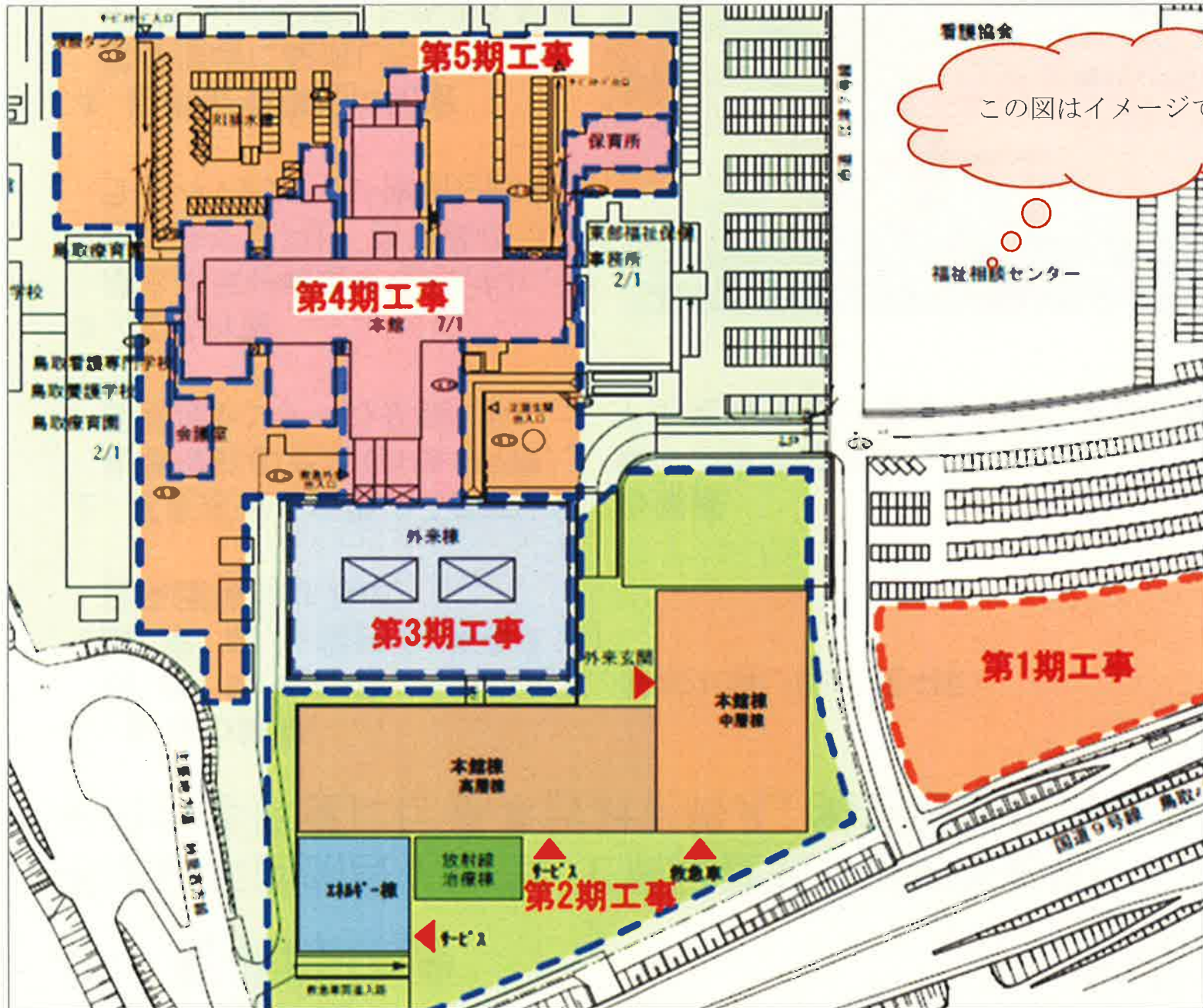
浸水対策を徹底するとともに、免震工法を採用し、災害時のライフラインバックアップ体制を確保

4. 患者療養環境に配慮

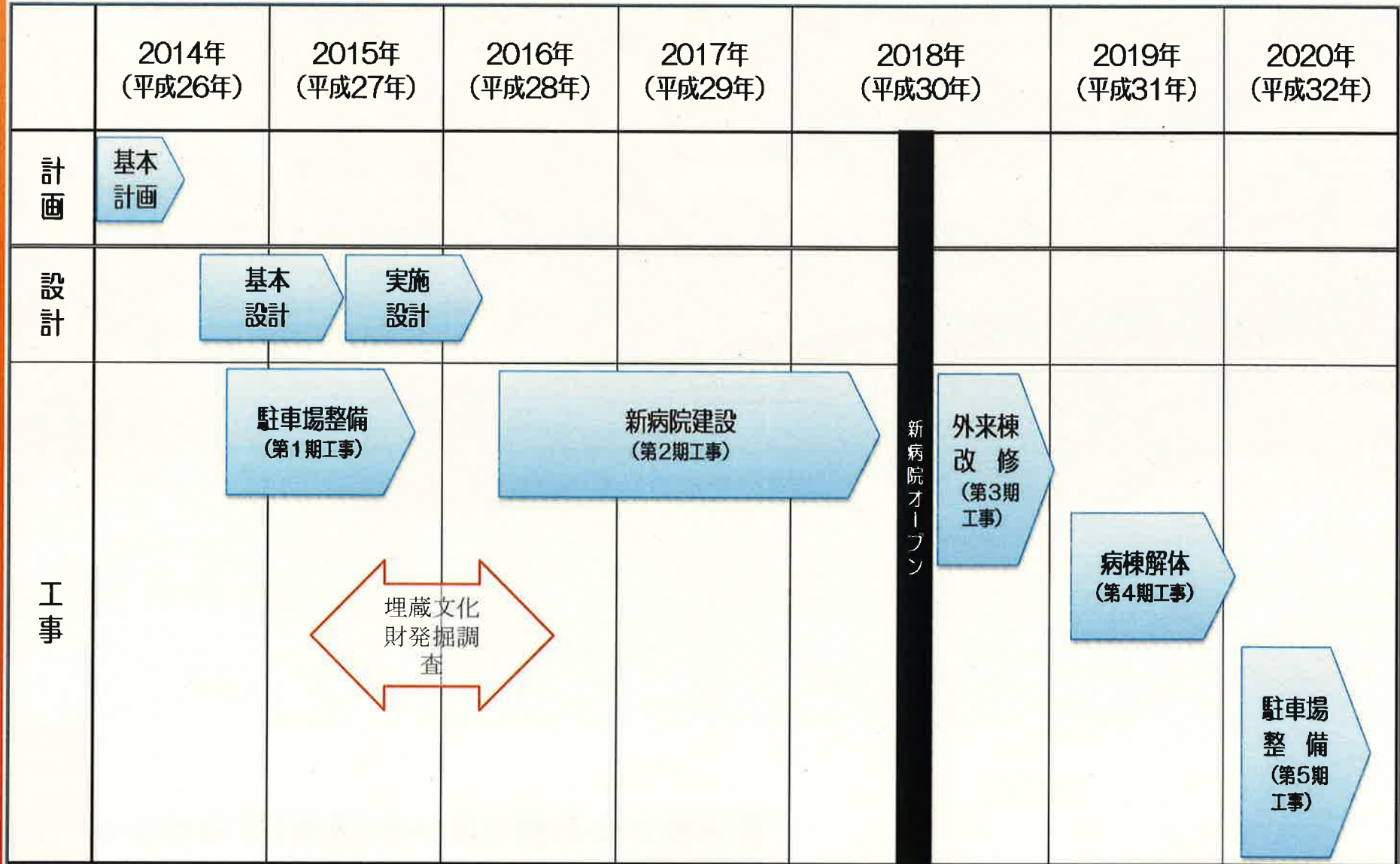
療養環境に配慮した病棟、プライバシーに配慮した外来を整備



5. 新病院の建設予定位置



6. 新病院建替え整備の全体スケジュール



7. 外来棟屋上(東側)から見た現在の工事風景



注:手前は埋蔵文化財発掘調査・環境整備工事の一部、市道を挟んで駐車場整備工事

8. 南側上空から見た新病院のイメージ



» 注 本書は設計提案時のイメージ

